

建築概論

(第15回)

目標とする技術者像

今回は、7回から14回までの要点の復習と、これまでの講義に出てきた建築と宗教に関する復習をしたいと思います。

これは、通常なら期末試験に向けての復習ですが、今回は、講義レポートとしてまとめてください。

なお、今回はこれまでの復習であるため、解説は加えていません。
(解説は、以前の講義を参照してください。)

倫理とは



https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/text/basic/what_is/index.html

技術者倫理

技術者同士の間での決まりごと、守るべき秩序

建築倫理

建築技術者の間での決まりごと、守るべき秩序

建築倫理を学ぶ意義

建築学科の学生が、卒業後、実社会に出て何らかの建築専門家になる場合に直面する倫理問題について

- ① あらかじめその概要を知る
- ② 自分が背負うことになる責任の重さを知る
- ③ これにどう対処するかを考える

技術者に必要な三つの倫理

- 順法性(コンプライアンス)
- 説明責任(アカウンタビリティ)
- 真実の記述(トゥルースライティング)

倫理の出発点は、常識(コモンセンス)

自らの倫理観を育てるためには？

- まずは学ぶ姿勢
 - 聞く力を身につける
 - 好奇心を持ち続ける
 - 未熟であることの自覚(知らないことの方が圧倒的に多い)
 - メモを取る習慣を身につける
- 尊敬できる先生を持つ
 - 人生は「であい」である

空飛ぶタイヤから学んだこと

- お金より大事なものは沢山ある
 - 子供の純粋な願い
 - 働くことの喜び
 - 人と人との絆(繋がり)
 - いのち(生命)の輝き(赤ちゃんの誕生)
- 内部告発の難しさ
 - 内部告発者のほとんどは会社を追われる
 - 内部告発には仲間が必要
 - 内部告発には家族の理解が必要(生活を守る必要)
- 権力との戦い
 - 壁の側に立つのか、卵の側に立つのか。
文学者は卵の側に立つ(村上春樹)。
 - 自動車で蛙を踏みつぶしても痛みを感じない。
権力は弱者を踏みつぶしても痛みを感じない。

技術者の良心

- ① 技術に忠実に判断する
- ② 科学技術の限界を知る
- ③ 結果について想像する
- ④ 技術者である以前に市民である
- ⑤ 原則に立ち返る

建築と地球環境との関わり

- 建設産業は、典型的に資源・エネルギーの大量消費に立脚した産業。
- 建築物が他のいかなる産業の製品よりも巨大であり、建築物を構成する基本素材は鉄とセメント。
- 鉄とセメントは、原鉱石に大量の熱処理を加えて作り出される材料であって、エネルギーのかたまりのようなもの。
- 竣工後にも、空調・照明・給湯・諸動力と、建物の運用段階で常にエネルギーを投入して居住環境を維持していかなければならない。
- そしてライフ・サイクルの終わりに解体、撤去される段階で、大量の廃棄物を生み出す。
- 建物を建て、都市を建設することで、地球環境に大きな負荷をかけている。

建築と宗教

- 建築は人間の生き方と深く関わる分野であり、建築家には、哲学、宗教への理解が不可欠である。
- 歴史的建築遺産の多くは宗教建築である。
- 宗教は、人間を知るための教えであり、宗教の基本原理を学んでおくことは、生きる上で非常に役に立つ。
- 広島は安芸門徒の地と言われ、今でも仏教の伝統が色濃く残っている。建築技術者として、お寺の神社の違いもわからないでは困る。

建築と哲学 ギリシャ人の思想体系における「制作」とは？

哲学者プラトンは、万有（あらゆる存在）の本源（アルケー）として**イデア**を想定し、われわれの知覚する事物はすべて**イデア**を分有し、**イデア**を模写することによって現実の存在者となると考えた。

例えば、樹木は、神の制作術によって樹木の**イデア**が現実態をとったものである。人間もまた制作能力を持つ。（すなわち、制作は**イデア**の模写）

「イデア」とは、われわれの肉眼に見える形ではなく、言ってみれば「心の目」「魂の目」によって洞察される純粋な形、つまり「ものごとの真の姿」や「ものごとの原型」の意味。（出典：フリー百科事典『ウィキペディア』）

すなわち、建築家は、「ものごとの真の姿」を洞察する力を身につける必要がある。

哲学と宗教 ソクラテスもブッダ(釈迦)も約2500年前に誕生した！

- 宗教は哲学の母
- 宗教が“神話”で世界を説明するのに対して、哲学は“たしかめ可能性”を追求するもの
- 哲学が真に考えるべき問題は、“自然”や“世界”についてよりも、この世界を問うている、わたしたち“人間”自身。

真に豊かな人間性を獲得しようとするれば、哲学・宗教は不可欠。
人間を知らずして、人間が住む建築を設計することはできない。



副読本:『学生のための仏教入門～仏教に学ぶ生きるためのヒント～』を読むべし
(仏教は宗教というより哲学に近い)

形而上学



ストーンヘンジ 紀元前2500年から紀元前2000年の間に立てられた

- 現象界の奥にある、世界の根本原理を(純粹思惟や直観によって)探究する学問。
- 「世界」は全体としてどういうものか、「神」は存在するか否か、人間の死後の運命はどうか(「魂」は不死かどうか)、というような、人間の理性の発する究極的な問いに答えようとするものである。

宗教建築 → 見えないものを形にする。 → 仏教では「方便」と言う。

超越性の問題 森田慶一『建築論』



東京カテドラル内部

- 超越性とは、感覚によっても理知によっても補足することができない世界にありながら、それが存在すると意識せざるをえないような状態をいう。
- 建築において超越性が意識される場合、文明社会の宗教建築では、美しいという芸術的現象と結びついて発現する。
 - すなわち、現象的存在を通じて超越的存在が意識される。
 - あるいは美しい空間が聖なる空間と重なり合うところで超越性が意識される。
 - 超越的空間が現象的な空間からいわば放射する。ちょうど仏像においてその超越性が後光の形で顕示されるように。

倫理と宗教・哲学の違い

- 倫理は、時代や社会とともに変化する。
- 宗教や哲学は、時代を超えた普遍的な価値を求めている。
- 倫理の背後に、宗教や哲学がある。
 - この世は不条理に満ちており、倫理だけでは解決できない問題が沢山ある。
 - 人間は本質的に自己中心であり、それが常に倫理の障害となる。
 - 倫理を守るために、宗教・哲学が必要とも言える。

人間が生きることの意味を感じる三つの価値

ヴィクトール・フランクル(1905～1997)

- **創造価値**
 - 人間が行動したり何かを作ったりすることで実現される価値。
 - 仕事をしたり、芸術作品を創作したりすることがこれに当たる。
- **体験価値**
 - 人間が何かを体験することで実現される価値。
 - 芸術を鑑賞したり、自然の美しさを体験したり、あるいは人を愛したりすることでこの価値は実現される。
- **態度価値**
 - 人間が運命を受け止める態度によって実現される価値である。
 - 病や貧困やその他様々な苦痛の前で活動の自由(創造価値)を奪われ、楽しみ(体験価値)が奪われたとしても、その運命を受け止める態度を決める自由が人間に残されている。

第15回レポート課題

1. 建築倫理について学習したことをまとめよ
2. 建築と宗教の関わりについて学習したことをまとめよ
3. 副読本の「第14章」を読んだ感想について書け

16

今回は、このレポート課題にしたがって、レポートを作成してください。

以上で、第15回目の授業を終了します。